

# 望郷の町

作詞・作曲 中嶋尋丈  
唄編曲 横山尋丈  
磯崎虎一

雨の降る夜は しみじみと  
ひとり淋しく飲む酒は  
あまく せつない青春を  
思い出させる須田の町

国は敗れて山河あり  
忘れな草に雨が降る  
仰いだ夕焼け南の空に  
夢く散つた あの笑顔

思い出たづねて須田の町  
ふと見た あの娘の片笑窓  
おさげ髪した醉芙蓉  
ゆかた姿が忘られぬ

須田の街角 夜霧にぬれて  
月影淡く灯がともる  
沖の栗島 波間にかすみ  
瀬戸は静かに暮れてゆく

# 望郷の町

作詞・作曲 中嶋尋丈



## 詫間海軍航空隊・神風特別攻撃隊出撃の地

昭和十六年十一月、詫間海軍航空隊の建設が発表された。香田、和田内地域と新浜には呉海軍軍需部詫間補給所が建設され、三地区で合計百三十六戸（買収面積約三十七町歩）の土地が強制買収されて立ち退くことになった。移転に伴う労苦は筆舌に尽くし難いものであった。昭和十八年六月一日、詫間海軍航空隊は開隊され、水上機の実用機教育を担当した。主要配備機は九四式水上偵察機、二式飛行艇等であり、各地から二千余名の兵員が着任し、連日猛訓練が展開された。

昭和十九年九月、横浜海軍航空隊は沖縄攻防戦に備えて主力を詫間に移すことになった。この時点で、ここ詫間は大型飛行艇隊を擁する水上機の一大作戦基地となつた。昭和二十年四月二十五日、第五航空艦隊は決戦態勢を整えるため、全飛行艇部作戦では、高速性能のうえ大型レーダを装備した二式飛行艇二十七機と二百五十名の精銳を失つた。

昭和二十年二月十六日、全小型機による特攻訓練の実施が発令された。詫間空では、水上偵察機による神風特別攻撃隊琴平水心隊を編成した。同時期、茨城県北浦・鹿島両海軍航空隊で編成された神風特別攻撃隊魁隊が詫間空に進出、両隊は猛訓練の後、鹿児島県指宿を前進基地として沖縄周辺の艦船に体当たり攻撃を敢行した。四月二十八日以降四次にわたる出撃で二十五機が米軍艦船に突入し五十七名の若者が沖縄の空に散華した。（史跡・詫間海軍航空隊跡 詫間町教育委員会記より抜粋）

戦後六十余年、詫間海軍航空隊跡地は詫間電波高等専門学校と神島化学工業（株）詫間工場等に、十一空廠跡地は詫間中学校に転用され、わずかに水際四箇所の滑走台（スベリ）と横穴式防空壕を残すのみとなつていて。平成九年七月、この事実を史実として著した一冊子「戦後五〇年誌・詫間海軍航空隊物語」（詫間海軍航空隊記録編集委員会編集）が発刊され、平成十二年十一月には、詫間海軍航空隊跡地が一望できる県道脇に詫間町の史跡として記念碑が建立されている。

この地から家郷を思い、肉親に思いをはせつた純粹な若者たちの姿を想い浮かべるとき、どうしても涙なくしては語れず、一度とこのような痛ましい戦争の惨禍が起ることのないよう、恒久平和を念願してやまない。併せて在天の戦友たちの冥福を遙かに祈りつつ、多感な青春時代に軍律厳しい中にも苦楽と共に過ごしたあの第二の故郷・須田の町に思いを寄せた人々への心情を推して作詞作曲した。

夕やけの空に散りしか若桜須田の磯根に千鳥鳴さしく

合掌